討論メモ

「グレートリセットの時代に　漂流する日本」

令和 4年1月18日

1.　1月は、表題について森田がプレゼンテーションを行いました。

世界は、米中対立、中国の軍事膨張、武漢発のウイルス騒動、監視社会への邁進，エネルギーの高騰、食糧危機の兆しなど危険な兆候を随所に覗かせている。

その上、米中の両大国自身が内部に深刻な矛盾を抱え、熾烈な権力闘争、あるいは国家の分断の危機を孕んで、極めて不安定な状態にある。

この二百年、実質的に世界を支配してきたともいわれる国際金融資本は、2021 年のダボス会議のテーマを”グレートリセット”に設定し、従来の社会体制や価値観の根本的な転換をにおわせている。世界は激変の様相を色濃くしている。

そんな中で、日本はどこに向かおうとしているのか。行方を定めて前進しているのか、それとも、たださ迷い、漂流しているのか？

下記の視点からの日本の現状についての問題提起と疑問の投げかけがあった。

①. 米中の狭間の地政学上の立ち位置
②. 経済不況を招いている緊縮財政の継続の是非
③。安全保障
④。エネルギーの確保
⑤。食糧危機
⑥. 憲法改正
⑦。ウイルス騒動への対応
⑧. 皇統の維持
⑨. 目的地はどこか

2.　続いて出席者９名による意見交換に移り、下記のような意見が出されました。

・西洋列強が中国に置き換わっただけで、日本を取り巻く状況は幕末によく似ている。
・軍事のみならず、中国はソフト侵略も活発化させているが、孔子学院などは諸外国は追放しているが、日本は放置したままだ。
・幕末より情勢は複雑になっている。

・大手メディアの報道も偏向している。信頼できる情報を集める努力が必要だ。
・中国は一歩進んで、半歩下がる作戦が得意だ。その戦術に騙されてはいけない。
・習近平を巡っても様々な情報が入り乱れていて奇々怪々だ。
・世界は混とんの時代に入っている。

・岸田首相の施政方針演説もコロナや経済対策が主で、外交・安保は危機意識が足りないのではないか。

・経済三団体も政府の曖昧な対中政策を支持する表明をしている。
・トヨタ・ホンダも中国での販売増を喜んでいるようで、心配だ。
・経営者は短期的な利益や自己の保身にのみ熱心なのではないか。国益や従業員の将来も考えるべきだ。
・中国は企業進出する時は大歓迎だが、経営が軌道に乗り出すと抗えない指図が飛んでくる。
・中国の現状は国家資本主義ともいえる。自由を尊重するよりも、効率的な面もある。
・中国の TPP への申請に対して日米はどう対応するのか。

・馬鹿正直ではなく、したたかな外交も必要だ。
・白黒をはっきりさせるのは西洋流だが、日本は曖昧でよい。
・尖閣よりも平和が大事だ。

・中国の少子化は急速に進むようだ。男子が女子より 20%も多い人口構成が拍車をかける。
・付き合いのあった技術者たちによると、一人っ子政策のあおりか、女児は殺されるそうだ。
・今は妊娠中にわかるので、女の胎児は流されるようだ。

・戦後は米国に徹底的にやられた。先の円高不況も米国に操られたものだ。

・核武装も議論し検討すべきだ。
・日本は今すぐにも核武装できる能力が備わっている。
・米国は、日本に対して非人道的な原爆投下を実施したという自覚があるので、日本のリベンジを極端に恐れて、日本の核武装に反対し続けている。
・佐藤元首相はどういうつもりで、非核三原則など打ち出したのか。

・核以外の主要兵器も国産は許されず、米国から言い値で買わされ続けている。
・軍需品の国産比率は近年さらに落ちているともいわれている。重工や IHI など軍需産業は困り果てている。

・明治政府は、資金不足の中で軍事費に 20%の予算を充てていた。

・米国は、戦後の平和日本の番犬という見方もあったが、状況の変化に応じた対応が必要だ。
・孫子の代にも安定した生活が保てるには、軍備という備えが必要だ。

・コロナで世の中が変わらなければ、戦争が来るのではないか。
・戦争にもいろいろの形態がある。軍事ではなくソフトな戦争がもう始まっている。
・いや、兵隊が戦う戦争が来る予感がする。

・近年の戦争の原因は飢餓だ。フランス革命も冷却化による飢餓が発端だ。
・同じころ、日本も天明飢饉で 110 万人が死んでいる。
・トンガの大噴火が起こっているが、地球の冷却化が起こると食糧危機が襲ってくる。

・コロナ後はサプライチェーンの見直しをして、食料、エネルギーを始めとして、必要物資の自給体制を整えるべきだ。

・天明飢饉で苦しんだ東北の人たちが北海道に移住しニシン漁を始めた。それが大坂の綿工業を起こし、更にはトヨタやスズキの織機に発展した。危機は再生へのチャンスでもある。

以上